

生産技術革新部門

静岡県富士宮市 農事組合法人 富士農場サービス
(理事：桑原^{くわはら} 康^{やすし} 氏)



- 経営規模：原種豚（雄）170頭、原種豚（雌）230頭、原種豚候補豚140頭、肉豚2,300頭

(注1) 数字は平成30年当時のもの

(注2) グループ会社の(有)TOPICS含む

経営展開のポイント

- ・ 農事組合法人富士農場サービスは、7種の原種豚を保有し、雄の原種豚を飼育。有限会社TOPICSは、雌の原種豚及び肉豚飼育を担う。双方の質を高め補完するため役割を分担し、2社で富士農場サービスグループを構成。
- ・ 「味重視」の日本的育種に取り組み、人工授精用精液と人工授精用器材、原種豚を全国の養豚場や大学、研究機関に販売。富士農場サービスグループの血統の豚の肉質特性の高さが市場でも評価されている。
- ・ 独自の交配による銘柄豚（富士のセレ豚^{ぶー}など）は、飲食店や精肉店から高い評価を得ており、東京都内と静岡県内で40店舗以上が取扱う。
- ・ ビーグル犬に代わる第3の実験動物として、医療実験用のマイクロミニピッグを開発し、医療・製薬技術の発展に貢献。
- ・ 綿密な血統管理システムや繁殖管理システムを活用し、原種交配による品種改良を通じ良食味豚を提供。消費者・実需者ニーズに対応した交配や肉豚生産に取り組む。